



イケケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

第 555 回 二重手間になる人～間違いなく問題社員です。

2013.12.15

詰めの甘い「ツメアマタイプ」と呼んでおく。どこの職場でも必ず存在する困った社員である。「コピーできました」と持ってきた書類は、重要なページが抜けている。ページの表示がない。異常数値があるのにもかかわらず「決算書作っておきました」と平気で持ち込んでくる。この数値はおかしいな…誰が見ても分るべきシグナルを見逃して平然としているタイプ、案の定、計算式が間違っていることを見抜いた上司、「お客様に提供する前でよかった、時間がないので俺がやり直そう」、困惑しきった、そんな上司の顔が浮かんでくる。

やっぱり困ったタイプである。

このタイプの社員は、オッチョコチョイで気まぐれ、しかも「早とちり」タイプといえる。

だから、一度で仕事が片付かず、よく失敗をする。最後にチェック、確認をしないから、仕事も言動も詰めが甘く緻密でない、無責任タイプである。

しかも厄介なことに、何度注意してもまた、同じ間違いをする。

仕事の最終目的は何か、つまり仕事の本質を理解しないまま、ただ言われた通り動くだけ。結果『ポカ』をするし仕事が完璧に終わらない。

コツコツと、一つずつ潰していく仕事は、とつても危なくて頼めない。

だからこのタイプに仕事を頼むと二重手間、時間もコストも2倍になる。

「軽率」では済まされない場合があり、会社に大きな損害リスクを潜在した危険人物で、会社に余裕があれば、出来たら変えて欲しい、辞めてほしい…他のスタッフからも、そう思われている。でも本人だけは気付いていない「かわいそうな人」と言って良いかもしれない。

だから、今日も、いつもと変わらず平然と出社してくる。

断固辞めないのが「ツメアマタイプ」(詰めが甘い人)の特徴である。

なんでそうなったのか、その原因を探ると、どうも「育った環境」にあるようだ。家族に甘やかされて育ってきたから、結果的に「わがまま」が許されて育ってしまった。自己中心の価値観が身に付き、「自分可愛さ」だけしか持ち得なくなってしまった。人の欠点を鋭く指摘する能力(?)は抜群だが、自分が何か言われた時は異常なまでに反抗し、決して素直にインプットしない。自分以外は中々認めようとしなから、己の非も見えないのだろう。

このようなタイプの社員の更正方法は、単独行動させないことだ。

必ずペアで組ませる事である。そしてお互いにチェックさせる事が必要になる。

指示した後に必ず復唱させる又はメモをとらせるなど、基本的な習慣を、身に付かせる指導が必要になる。繰り返し継続する OJT (On-the-Job Training) の徹底である。

人材不足が常態化にある中小企業、大企業のように、簡単に切り捨てるのが難しい。

非効率で、非生産的であることは、分かっているが、残されたわずかな社員を、辛抱強く、少し時間をかけて、改造してあげる…そんな余裕をもちたいところである。